

プールが始まると思い出すことがあります。
今日は、その話をします。

今から三十数年前の夏の話です。
私は、ある小学校で夏休み中のプールの指導員をしていました。
そこで、一人の男の子と出会います。
その子は、三年生で水泳を苦手とする子でした。
私は、先生方から、その子につくよう言われずと一緒に過ごしました。
泳ぐことはもちろんできません。はじめの頃は、顔を付けることさえ怖がっていました。

偉いなと思ったことがあります。それは、夏休みのプールが、当時20回くらいありましたが、一度も休まず来ました。プールが嫌いなのできつと行きたくなかったと思います。しかし、毎日欠かさず参加するのです。
すると徐々に顔を付けることができるようになり、底に手を付けることができたり、だるまうきをしたりすることができるようになったのです。
浮くことが分かった男の子は、けのびやばた足の練習をします。何度も何度も水を飲んで、諦めず挑戦した結果できるようになったのです。

そして、夏休みのプールの終わりの日に検定がありました。
そこでプールの縦12.5メートルに挑戦したのです。
練習では一度も泳ぐことができませんでした。

笛の合図でスタートします。
手をぐっと前に伸ばして、一生懸命ばた足をします。そこから、大きな水しぶきが上がっていました。しかし、そのしぶきも徐々に小さくなりました。さぞ苦しかったのでしょう。進みがゆっくりになり何度も何度も息継ぎをしていました。
大丈夫かなと思ったときに、それを見ていた友達が大きな声で応援をし始めたのです。その声援を受けてまた大きなしぶきに変わりました。
そしてついに、12.5メートル泳ぎきることができたのです。
ゴールの瞬間の彼の笑顔は今でも忘れることができません。
後で担任の先生から聞いたのですが、彼は、水泳が始まる前に書いた目標に「プールの縦を泳ぐ」と…

このとき、私は、子供の可能性は無限だなと強く感じました。
実は、このことがきっかけで私は、先生になろうと決めたのです。

皆さんにも無限の可能性が秘めています。
水泳指導の目標をしっかりと立ててそれに向かって諦めずに挑戦してください。